



お茶の水甲状腺クリニック
OCHANOMIZU THYROID CLINIC

採血に伴う合併症について

「採血」は基本的には安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく、また軽症なものが多いとされております。しかしごくまれに、次のような健康被害を生じるとの報告があります。

アレルギー

採血時の消毒薬（アルコール等）やスタッフの手袋（ラテックス）などでかゆみ、発疹を初めとするアレルギー症状が出現することがあります。アレルギーのある方は、検査前にスタッフにお申し出ください。

止血困難・皮下血腫

穿刺後の不十分な止血操作などが主な原因です。穿刺部位は揉まずに十分な圧迫止血をしていただきますようお願いいたします。内出血があっても、ほとんどが1週間程度で自然に治ります。出血しやすい方はスタッフにお申し出ください。



迷走神経反応

検査前や検査中に神経が興奮し、急激に血圧が下がるためにめまい、気分不快、意識消失などを引き起こします。ご経験のある方は検査前にお申し出ください。



神経損傷

採血後に手指へ広がる痛み、しびれなどが生じ、一定時間が経過した後も持続します。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいため神経損傷を100%防止することはできませんが、通常の採血では太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で症状は軽く一時的な場合がほとんどです。